

フードバンク

生きる環境を変える 喜びを分かち合おう

おたがいさま広場・蔵前

10月23日、堺市北区の蔵前町会館でフードバンク（通称：おたがいさま広場・蔵前）を実施しました。フードバンクの北区ブロック開催は初めてでしたが、「友の会」の各支部をはじめ、ファミリークリニック、大阪民医連、地域の青年団体も参加し、蔵前町自治会の協力も受け、4月から会議を重ねて準備をすすめました。当日までに8000枚のビラも、手分けして地域に配布しました。

「無料低額診療」を知らせていこう

食材は、お米・レトルト・インスタント食品ばかりでなく、野菜不足を補うために、知り合いの方が育てた冬瓜も置かせてもらいました。冬瓜は「重くても嬉しい」と、たくさんの方に持って帰ってもらえました。

当日のスタッフには、耳原総合病院の研修医や



生健会の相談員も参加され、来場された方の健康相談にも応えました。健康や生活に不安があっても、お金の心配が先立ち、受診に結びつかない方には、ファミリークリニックや民医連の病院で実施している「無料低額診療」を知らせていきたいと思われました。

当日は、60人近い方が利用され、アンケートを含めて61枚ありました。利用者の中には、「みなさんに優しくしていただいたから」と涙ぐみながら帰られる方も。それほどに



「日々の生活が深刻なだろう」と想像しました。

政治の抱える責任は重大だ

アンケートでは、70代以上の高齢者が多い印象で、少ない年金でなんとか生活されている方、コロナ禍の影響で減収になった子育て中のご夫婦やシングルマザー、現役世代でも多くの方が困っている実態が明らかになりました。

食材以外で支援がほしい物では、洗剤、オムツ、生理用品やマスクなど、日常で欠かせないものが多く、それ以外で困っていることには、コロナ禍の影響で親戚や知人と会えていないこと、交流の場がほしいなどでした。今回の開催時には、「できれば参加したい」が多く、こういう活動が求められていることが分かりました。

「繋がり」の貧困の問題



これからも継続してこの活動を

反省点は、「アンケート内容をもっと議論するべきだった」ということです。プライベートから、名前、連絡先や職業の欄は省きましたが、必要な方には書いてもらえるようにするなど、これからの参考になりました。

題や生存権（憲法25条）が保障されていないこと、コロナ禍での減収に、円安・物価高の影響、75歳以上の医療費窓口負担2倍化など、政治の抱える責任も重大だと思えます。

岸上 剛士

介護の現場から

耳原訪問看護ステーション 管理師長

宮川 光代

行っていきます。がんで治療されている方から、「肺に水が溜まっていたのが、引いて楽になって、生きてる」と実感しました。

在宅で困ったことは訪問看護にご相談を

新型コロナウイルスが流行し、病院での面会が制限されていることもあり、家で療養することを希望される方が増えました。住み慣れた家で過ごすことは、気持ちの安らぎにつながると思います。私たち訪問看護師は、できるだけ症状が緩和されるように、主治医と連携を取り、ご自宅に訪問してケアを

わついたりする場合に、戸惑われる場合もあると思いますが、そのような時は、訪問看護でお手伝いができることもありますので、お気軽に声をかけてください。以前と比べると

か、「私が帰って犬も元気になったみたいですよ」など、お話を伺い、こちらもうれしくなりました。面会ができにくい分、医療処置が増えたり、入院前と容態が変わり、また訪問看護ステーションには、理学療法士、作業療法士も在籍しており、「トイレまで行きたい」、「関節が固くなるのを予防したい」、「筋力を付けたい」などの「要望に沿うように努めています」。

そのような中、この10月から一定以上の収入の方に対して、後期高齢者医療の2割負担が実施されました。病気の時に医療費を心配せずに治療が受けられるよう、私たちも一緒に声を上げていきたいと思えます。

「新連載」に向け、大募集!

健康友の会みみはらは、2024年11月に40周年を迎えます。40周年にむけて、来年2月号から、「40年を振り返り、未来を展望する」連載を開始します。

「友の会で印象に残っていること」「思い出の写真」「友の会とわたし」……など、なんでも結構です。「とも」編集部までお送りください。写真はお返しいたします。

40周年企画のアイデアも大歓迎です。会員の皆さんの友の会への思いをお寄せください。

送り先：〒590-0821
堺市堺区大仙西町6丁184-2
健康友の会みみはら事務局
e-mail: tomo-kenkou@mimihara.or.jp

24年10月に
友の会
40周年